（別紙３）

令和５年度“「長久手市役所の仕事」通知表”の作成
～長久手市行政評価・外部評価～

大学連携事業

くらし文化部　たつせがある課

まちづくり、まずは笑顔でこんにちは

長久手市はあいさつ運動に取組んでいます

1　事業概要①

◆事業名

大学連携事業

◆事業体制

本市の大学連携事業は2種類

①各課で実施している大学との連携事業

担当課から、市の事業への大学及び学生の参加、大学への委託事業などさまざまな形態で大学と連携している事業

②４U事業（市内4つのUniversity）

長久手市大学連携推進ビジョン４Uの計画に基づいて、市（たつせがある課）と市内4大学の委託契約によって実施する事業

愛知県立大学/愛知県立芸術大学/愛知医科大学/愛知淑徳大学

1　事業概要②

◆事業の開始の背景、経緯等

①各課で実施している大学との連携事業
必要に応じて各課で大学に依頼をかけたり、大学から依頼が来たりなど事業開始背景は事業や担当課によって異なる。
連携内容や方法についても担当課が大学と直接調整を行っています。

②４U事業
第5次総合計画において「大学をまちづくりに生かす」を掲げており、市と市内4大学が包括的な取組を進めるため、包括連携協定を締結。

- 平成22（2010）年6月24日　愛知県立芸術大学
- 平成22（2010）年10月14日　愛知淑徳大学
- 平成24（2012）年1月19日　愛知医科大学
- 平成24（2012）年5月10日　愛知県立大学

その後、平成30（2018）年3月に、市内4大学とその学生・市民・企業などが横の繋がりを築いて、最大限の相乗効果を発揮させるための仕組みづくり長久手市大学連携推進ビジョン４U（10年計画）を策定。

2　事業の実施体制

◆組織体制、人員

くらし文化部―たつせがある課―地域協働係
　　　　　　　　　　　　　　　└交流商工係

役職	人数
たつせがある課長	1名
課長補佐	1名
係長	1名
主任	1名
主事	1名

３　事業の目的①

◆事業のゴール（市としてどうなるのか）

最終アウトカム

日常的に大学や大学生がまちに出てまちづくりに関わることで、**地域の活力が向上**するとともに**市のイメージ向上**に寄与する。

３　事業の目的②

◆事業対象（誰、何を対象にしているか）

市内4大学・近隣大学・市民・企業及び行政

◆対象者がどうなることを目指すか

中間アウトカム

大学連携事業へ参加する市民の数が増加する。

３　事業の目的③

◆事業を構成する事務事業

	事務事業名
①	学生まちづくり活動支援事業
②	
③	

◆どんな活動を行うのか

大学の専門性や特色を生かし、地域課題の解決と活性化を図る事業を実施する。

４　成果指標

◆成果指標（対象者の変化をはかることができる指標）

大学連携事業への参加延べ人数

◆指標の設定根拠

大学連携事業の実態を把握することができ、
かつ市民の関心の高さが数値に表れるため

◆成果推移と成果目標　（単位：人　）

Ｒ２年度 実績	Ｒ３年度 実績	Ｒ４年度 実績	Ｒ５年度 目標	Ｒ６年度 目標
1,625	3,935	7，394	7，500	8，000

5 事業のふりかえり

◆事業開始からの主要なエピソード

令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントを自粛したり、実施方法をオンラインに変更したりと大学連携事業に制限がかかる中でも参加者にとって有意義なものになるよう実施方法を模索しながら事業を実施した。

その一方で、令和3年6月にリニモテラス公益施設が開館したことで大学連携の活動拠点が生まれ、コロナ明け現在は、徐々に学生の活動が充実してきている。

◆令和４年度の活動エピソード

４U事業『防災サバイバルフェス』（愛知県立大学×長久手市国際交流協会）

市内4大学、長久手市国際交流協会、尾三消防本部、長久手市社会福祉協議会等が連携し防災イベントを実施し200名の来場があった。

当日は、各大学の特色を生かしたそれぞれの関わり方で会場全体に学生が散在し、イベント自体に活気が溢れ、大学生のサポートがイベントの盛り上げに寄与した。ひいては、市内の大学及び大学生の存在を市民に周知する機会となった。

◆防災サバイバルフェス2022

6　課題分析①

◆目標達成状況（進捗状況は順調か）

進捗状況は順調である。リニモテラス公益施設が開館したことで、大学連携事業の活動拠点が生まれ、学生活動が充実してきている。そのため、学生の活動数の増加に伴い、必然的に参加者数の増加にも繋がるため。

◆目標達成のために対処が必要な要因

改善ポイント

【改善ポイント】大学連携事業における実態の見直しを行う

①事業の効果的な周知方法を見い出せていない

→周知の手段が少ない、周知期間が短い、魅力的な案内文の作成に欠けているなど

②市民の大学連携事業における実態把握ができていない

→大学生に望む事業、事業開催の時間帯、場所、曜日など市民のニーズが把握できていない

③学生活動の伝承が十分とはいえない

→コロナ禍に学生や担当教員の入れ替わりが発生

学生が参加したくなる仕組みづくりが必要

6　課題分析②ー１

◆事務事業①の方向性

事業の方向性			コストの方向性		
拡充 ⬆	改善/見直し ➡	縮小/廃止 ⬇	拡充 ⬆	維持 ➡	縮小 ⬇

	事務事業名	事業の方向性	コストの方向性
①	学生まちづくり活動支援事業	➡	➡

◆中長期の計画（改善ポイント を踏まえ具体的に記入）

コロナ明け及び、リニモテラス公益施設が開館したことで学生活動が増加すると見込まれる今後を学生活動の転換期と捉える。

①大学連携事業における実態把握を行いつつ、活動方法や予算編成の見直しを行う。（3年以内に）

②実態調査の結果によって、新たな大学連携事業の方向性を発掘する。（5年以内に）

※次期計画（2028年施行）に反映できるように

7　おわりに

◆外部評価実施者に助言をもらいたいことなど

・今後の大学連携事業の方向性について

現在、各課が実施する大学との連携事業と４U事業の両立を行う中で、本市の特徴を生かした連携事業の推進において、現状では、４U事業に予算をつけているが、目に見えた成果が出にくいことが懸念点である。そこで、中長期計画で示している通り、このままこの予算編成や方法で継続するか、若しくは方向性を変えて新たな方法を検討するかを模索していくところだが、このことについて、アドバイスやご助言があればいただきたい。